

研究の流行と雑誌の必要性

保健学 I 講座 金子 誉

研究には流行（はやり）がある。今「はやり」の研究には、多くの分野の研究者が飛び付いてくる。一般的に「はやり」の分野の雑誌は研究者からの需要も高いため、ますますインパクト・ファクターが高くなる傾向がある。その反面、今「はやり」ではない分野からは、研究者も次第に離れていくようである。

分子生物学は、現在その「はやり」の最先端であると思われる。現在、基礎医学では生化学・病理学・解剖学・微生物学など、そして多くの臨床医学においてもDNAを対象とした研究を行っている。しかしながら、分子生物学的な手法は、医学研究の中ではもはや研究の一技術にしか過ぎない。この話は、DNAを扱った研究をリードしている基礎医学者からも臨床の先生からも聞いた。臨床の某先生は、臨床の場における研究は患者の原点に返ることが大切であり、DNA研究のみでは問題は解決しえないとも明言していた。

個々の疾患を対象とした臨床医学に比べ、衛生学などの社会医学は集団を対象としているので、その取り扱う領域は自ずから広くなる。衛生学の「生」は生命・生活・生態・生産などを意味し、それら全ての「生を衛る」という観点からグローバルな視野をもって研究する必要がある。したがって、その他の学問とはその目的もゴールもいささか異なる。研究成果がそのまま社会に還元されなければならないからである。ちなみに、私個人は毒性学と栄養学を専門としている。国際的には毒性研究は一時の「はやり」を過ぎたように思われる。社会医学的にも公害という言葉は死語となり、環境汚染の問題も漸次解決されつつある。しかし、いまだに新規・代替化学物質などによる中毒事例は発生しており、砒素などの化学物質の混入事件やダイオキシンをはじめ外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）の問題がマスコミなどでクローズアップされてきた。一方、糖尿病をはじめとする生活習慣病が、近年我が国でも著しく増加している。その一因として、食生活の欧米化が考えられているが、医学研究において栄養学の占める割合は現在少ない。学部の学生の講義にも栄養学の時間は少なく、御飯一杯のカロリー計算ができない医師もいる。このような時代的背景を鑑みて、毒性や栄養に関する研究は今後ますます重要になるものと思われる。これらの環境要因との因果関係を明らかにするためには、分子生物学的な手法だけでは解決できないからである。

諸般の事由で、本学附属図書館における雑誌、特に輸入雑誌の購読が大幅に廃止されることになった。どの雑誌が廃止の対象になるのかの議論が今年の図書館運営委員会でなされ、各講座からのアンケート調査に基づき対象雑誌が決定された。本学の附属図書館に毒性学や栄養学の関連雑誌が少なくなってしまうことは、まことに残念である。

雑誌の動き

誌名変更

BJU international Formaly: British journal of urology	v. 83 (1999)	泌尿器科学
Clinical neurophysiology Formaly: Electroencephalography and clinical neurophysiology	v.110 (1999)	精神神経医学
プチナース Formaly: E看護学生版	v.8(4) (1999)	図書館

医学中央雑誌がネットワークを經由して利用可能!!

かねてから利用者の皆様からの要望が強かった、医学中央雑誌 (CD-ROM) のネットワークを經由した利用が可能になりました。今は、館内の1階情報検索コーナーの3台のWindowsコンピュータから利用可能ですが、Macintoshや研究室からの検索もできるように現在準備等を進めています。館内のWindowsコンピュータでの利用方法は今までの方法と基本的には同じですが、フロッピーにデータをダウンロードする場合は、aドライブになりますので、それを確認後処理するようにお願いします。

鈴木前学長からの寄付金で学習用図書を購入

鈴木宏前学長から図書館へ学生用の資料充実のためにと、御寄付をいただきました。図書館で図書の選定を行い、下記の図書を購入させていただきました。

謹んでお礼を申し上げます。

1. 医学書院 標準シリーズ	29冊
2. 医学書院 フィルムリーディングシリーズ	6冊
3. 羊土社 New メディカルサイエンス	6冊
4. 医歯薬出版 リハビリテーション医学全書	13冊
5. 医歯薬出版 新編臨床検査講座	11冊
6. 共立出版 シリーズニューバイオフィジックス	11冊
7. メジカルビュー 分子医科学シリーズ	5冊
8. メジカルビュー 分子医科学で病気を識るシリーズ	5冊
計	86冊

詳細は新着案内 no.1 (鈴木前学長寄付金分) をご覧ください。

編集後記

新学期が始まり新しい学年・職場と、新たな環境に身をおいた方も多いのではないのでしょうか。

さて、図書館のコンピュータも一新され、医学中央雑誌は同時に3ユーザの利用が可能となる等、一層利用し易い環境となりました。

また図書館員が新しいコンピュータに不慣れな点もありますが、利用者のご協力と良識ある使用をお願いします。

(T.I.)



編集 / 発行	山梨医科大学附属図書館		
<TEL> 直通	73 - 9353	情報管理係	内2108
図書課長	内2106	情報サービス係	内2109
総務係	内2107	カウンター	内2110